

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：82657

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510340

研究課題名(和文) 内戦復興社会におけるクォータ制の役割と受容の過程：ネパールを事例として

研究課題名(英文) Impacts of Gender Quota System in a Reconstructing Society after Civil War: A Case Study of Nepal

研究代表者

幅崎 麻紀子 (Habazaki, Makiko)

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構(新領域融合研究センター及びライフサイ・新領域融合研究センター)・特任准教授

研究者番号：00401430

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はネパール社会におけるクォータ制のインパクトを、個人の生活の視点から考察したものである。クォータ制をきっかけとした女性の社会参画は、生活を著しく変化させ、妻として母としての女性役割に少なからず影響を与えていた。時には女性自身の心の葛藤を生みつつも、女性達は夫や義母や実家のサポートを得ながら、仕事と家庭の両立を図っている。精神面における夫や子ども、義父等の後押しも大きい。クォータ制は女性の社会参画のきっかけを作り、それを支える役割の1つを担う家族の存在が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to clarify impacts of gender Quota system on individual lives. Socio-political participation of women through Quota system affects their daily lives and women's roles as mother, as wife, and as a daughter. Sometimes they feel conflict dual duties between in public sphere and in domestic one. They spend great effort to make balance work and life using support of own mother and natal family as well as their family-in-law. Encouraging from children, a husband, and parents-in-law is also necessary to continue their socio-political participation in mind side. We have clarified the gender quota system in Nepal makes an opportunity of socio-political participation for women and they are based on family support.

研究分野：ジェンダー、文化人類学

キーワード：クォータ制 ネパール ポジティブアクション ワークライフバランス ジェンダー 家族

1. 研究開始当初の背景

女性の政治参画は、選挙権・被選挙権を含む参政権という制度的な権利保障として、主に 20 世紀を通して各国で確立されてきた。しかし、女性による参政権の行使の範囲は、概して選挙における投票行動に留まっており、国勢を決める国会議員、あるいは地方議会の議員となることは稀であり、女性の政治参画は著しく限定されてきた。このような状況の中、近年、発展途上国を含む多くの国々で、女性の議員が誕生しつつある。そして、これらの国々において、女性の政治参画に大きく貢献したのが、人種や性別をもとに一定の人数や比率を割り当てるクォータ制である。

ネパールにおいては、1951 年の王政復古と共に女性にも参政権が付与されたが、政治におけるジェンダーの壁は厚く、中でも、低カーストの女性たちや少数民族の女性たちは、国政のみならず地域社会においても代表となるチャンスを持つことすらなかった。しかし、2006 年に約 10 年間の内戦が終結し、社会秩序の再構成が開始されると同時に、他の多くの政治主体と同様、女性たちもまた新たな政治主体としてその地位を主張し始めた。その流れを受けて、国会議員や行政機関、自治体等の公的機関においてクォータ制が導入され、政策として動き始めたのである。

2. 研究の目的

本研究は、女性の政治・社会参画のためのクォータ制を、ローカル社会のコンテキストから分析するものである。クォータ制の捉え方や社会への影響、クォータ制によって女性の政治参画の伸長がもたらした女性の社会的文化的な位置づけへのインパクト等について、クォータ制によって政治・社会参画することとなった国会議員や行政職員、及びその女性を取り巻く人びと等の視点から捉え、クォータ制のもたらすインパクトについて、社会文化的視点から分析をすることが本研究の目的である。

本研究は、クォータ制の発祥の地である西欧を離れ、異なる社会的文化的背景を持つ多くのアジア、アフリカの国々に波及している状況を積極的に捉え、その政治や社会・文化に即してクォータ制を捉え、女性の政治・社会参画に伴う女性の文化的社会的な位置づけの変容を明らかにする研究となる。

特に、ネパールをフィールドとして女性の政治・社会参画、即ち、女性が社会に参画することは彼女らの生活をどのように換えるのか、そして社会や文化がどのように変化していくのかを、クォータ制によって突如国会議員となった女性とその家族や地域社会に焦点を当てることによって明らかにするものである。

3. 研究の方法

本研究は、クォータ制が無ければ政治・社

会参画を果たす機会のなかった「普通の」女性たちに焦点を当て、クォータ制との関連から女性の政治・社会参画を捉えるものである。調査方法は、主に人類学的フィールドワーク手法を用い、現地での文献調査の他、参与観察、及び質問票を用いた半構造化インタビュー調査を行った。具体的には、ネパールにおけるクォータ制度導入の背景について、各政党及び役所や事業所等へのインタビュー調査を通して明らかにした上で、政党、カースト、民族等の異なる女性国会議員や、役職の異なるフォーマルセクターで働く女性達へ、複数回に渡るインタビューを行った。インタビュー内容は、政治参画・社会参画に至る経緯、国会議員に至る経費、国会議員としての活動、当該事業所の職員に至る経緯、活動内容、家族関係、地域社会との関係、仕事と家庭の両立、家族による支援状況、家庭内役割とその変化、政治参画・社会参画による意識変化や生活環境及び日常生活の変化等についてである。更に、当該女性の活動に密着し、参与観察を行い、女性が政治・社会参画することのインパクトについての語りや言説をもとに分析を行っている。

4. 研究成果

質問票を用いて 70 人程の女性に、カトマンズ市内、カトマンズ近郊、ポカラ市内において、各政党事務所、女性達の就労場所（事業所）、国会議事堂内、個人の自宅等にて、インタビュー調査を行った。

調査資料の分析作業は現在進行中であり、データ入力、テープおこし、翻訳作業、コーディング、分析など、丁寧に作業を行っているため相当の時間を要している。現在も作業中であるが、これまでの分析作業の結果より、浮かび上がってきた事柄を列挙する。

国会や行政組織等、様々なフォーマルセクターへの女性の社会進出が進んだ理由として、ポジティブアクションの影響は大きい。特に、法制度によってクォータ制が明記されていることの意味は大きく、クォータ制により女性が国政に参画し、女性国会議員らによって更なるポジティブアクションを目指した運動が展開され、更なる女性の政治・社会参画の流れが生じている。

1996 年の地方議会選挙においてクォータ制により議員となった女性たちは、政治活動経験を持たない者達が多数を占めていた。当時、村議会の議員候補にノミネートされる人材が不足していたため、女性コミュニティ保健ボランティアやマイクロクレジットグループで活動する女性、男性政治家の親族関係にある女性が、地方の有力者の要請のもと、地方議員となった。当選した後、政治活動は家業（農業）との両立において負担となり、短期

間で政治活動を辞めている女性は少ない。

2008年の共和制移行後、制憲議会選挙で議員となった女性たちの報酬や金銭的保証は恵まれている。かつてとは異なり、議員報酬が生計手段となっているため、政治活動を将来に渡って継続していくことを希望している女性が増加した。

政治参画、社会参画によって女性の生活は著しく変化し、妻として母としての「女性役割」に少なからず影響を与えていた。女性達は、とりわけ、育児（特に母乳育児との両立や子どもが病気になった際のケア）との両立についての葛藤を訴える。政治活動や社会活動と女性役割の両立を支えるのが、夫や義母、そして実家のサポートである。精神面においても、夫や子ども、時には義父等、家族によって支えられている。

クォータ制をきっかけに、議員や公務員等、フォーマルセクターにおいて女性の参画が進んだ。それをきっかけに、社会参画を果たした女性達は経済的な保証、そして自分自身に対する自信や自尊心を高めることとなっている。政治参画・社会参画と女性役割の両立を支えたのは家族であり、家族もまた、クォータ制（ポジティブアクション）による影響を受けていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Sato S. "Satisfied with My Job' – What does she mean?: Exploring the world of Women Construction Workers in Nepal." *International Journal of South Asia Studies* vol.6, pp.79-97.

佐藤 華「世界の『片隅』で、フェミニズムを語る：ネパール、ヨルモ女性のライフ・ストーリー実践」『女性学(日本女性学会誌)』vol.20:38-57、2013年。

佐藤 華「ジェンダーをやる/やめる - ネパール・ヨルモ社会における女の実践、男の実践」『帝京社会学』26: 59-100、2013年。

幅崎 麻紀子「ネパールにおける子ども政策と母親の就労」『民博通信』147:22-23、2014年。

[学会発表](計11件)

幅崎 麻紀子「ネパール(バフン社会)における子育て環境の変容：女性の就労と母乳育児政策を中心に」平成26年度 HINDAS(広島大学現代インド研究センタ

ー)第3回研究集会、2014年10月4日、広島大学。

幅崎 麻紀子「ネパール(バフン社会)における子育て環境の変容：子どもとのコミュニケーションを中心に」日本文化人類学会第48回研究大会、2014年5月18日、幕張メッセ国際会議場。

佐藤 華「女は動く、女が動く：ネパール・ヨルモ女性の移動の諸相」ジェンダー史学会第10回年次大会、2013年12月8日、一橋大学。

佐藤 華「そこに「女性」はいたか：ネパール民主化の4半世紀」INDUS全体集会、2013年11月23日、東京大学。

幅崎 麻紀子「『男児選好』の行方：現代ネパールにおける子どもの性をめぐる選好性についての一考察」国際ジェンダー学会2013年大会、2013年9月7日、和洋女子大学。

幅崎 麻紀子「子どもの成長支援と『女性が働くこと』」平成25年度第11回思春期保健相談士学術研究大会、2013年6月2日、マツダホール(東京)。

HABAZAKI M. "The Politics and Local Praxis of Family Planning in Contemporary Nepal", ICOWHI (the International Council on Women's Health Issues) 19th International Congress, Nov. 16th, 2012, Emerald Hotel, Bangkok, Thailand.

佐藤 華「いかにして、彼女達は『仕事に満足』か? カトマンズの女性建築労働者の場合」日本南アジア学会第25回研究大会、2012年10月6日、東京外国語大学。

幅崎 麻紀子「ネパールにおける家族計画をめぐる『開発』とローカルな実践」日本南アジア学会第25回全国大会、2012年10月6日、東京外国語大学。

SATO S. "Satisfied with My Job' – How is she? : The case of Women Construction Workers in Kathmandu and Beyond", The Second ANHS (Association for Nepal and Himalayan Studies) Himalayan Studies Conference, Sep. 23rd, 2012, Western Michigan University, MI, USA.

HABAZAKI M. "Women and Political Participation After Civil War: A Case Study of Nepal". *Women's World* 2011, July 5th, 2011, University of Ottawa, Canada.

[図書](計4件)

幅崎 麻紀子「いのちと世界観」、道信良子編『いのちはどう生まれ、育つのか 医療、福祉、文化と子ども』、岩波ジュニア新書、2015年、55-61頁。

幅崎 麻紀子「『寡婦』が結ぶ女性の繋がり

り ネパールにおける寡婦の人権運動』、南真木人・石井溥編『現代ネパールの政治と社会 民主化とマオイストの影響の拡大』、明石書店、2015年、411-458頁。

幅崎麻紀子『リプロダクションの文化』としての家族計画：ネパールにおける生殖統制の条件』、小浜正子・松岡悦子編『アジアの出産と家族計画 「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』、勉誠出版、2014年、161-193頁。

HABAZAKI M. 'Widowhood, Socio-Cultural Practices and Collective Action: A Study of Survival Strategies of Single Women in Nepal', in Rajni Palriwala and Ravinder Kaur (eds.), *Marrying in South Asia: Shifting Concepts, Hanging Practices in a Globalising World*, 2013, pp.389-408.

研究者番号：

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

幅崎麻紀子 (HABAZAKI MAKIKO)

情報・システム研究機構 新領域融合研究センター 特任准教授

研究者番号：00401430

(2) 研究分担者

佐藤齊華 (SATO SEIKA)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：10349300

(3) 連携研究者

()